

水稻の病害虫防除対策（8月）

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがあります。独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>）等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和2年7月14日現在）

いもち病（穂いもち）

- (1) 7月上旬の調査では、県内の葉いもちの発生ほ場割合や発生程度は全般的に平年より低い状況でしたが、一部では穂いもちの感染源となる上位葉に病斑が見られるほ場もありました。
- (2) 育苗箱施用剤を施用したほ場でも、薬剤の効果がしだいに低下しはじめていますので、ほ場の発生状況を確認してください。
- (3) 葉いもちの発生が認められるほ場では、早急に散布剤による防除を行ってください。
- (4) 穂いもち対象の水面施用剤は、各薬剤の使用時期を逃さずに施用してください（表2）。
- (5) 散布剤で穂いもち防除を行う場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回散布を基本に実施して下さい。穂いもちが多発するおそれがある場合には、さらに傾穂期に追加散布を行ってください。

表1 いもち病（穂いもち）の防除薬剤（散布剤）

剤型	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a当たり使用量(散布液量)(注)	使用回数の制限※
粉剤	ノンプラス粉剤DL	トリシクザール	I 1	収穫7日前まで	3～4kg	2回以内
		フェリムゾン	U14			
	ビーム粉剤DL	トリシクザール	I 1	収穫7日前まで	3～4kg	3回以内
	ブラシン粉剤DL	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	3～4kg	2回以内
アライト [®]		I 1				
	ラブサイド粉剤DL	アライト [®]	I 1	収穫7日前まで	3～4kg	3回以内
液剤、乳剤、フロアブル剤、ゾル剤	アミスターエイト	アゾキシストロビン	C3	収穫14日前まで	1,000～1,500倍	3回以内
	カスミン液剤	カガマイシン	D3	穂揃期まで	1,000倍	2回以内
	ノンプラスフロアブル	トリシクザール	I 1	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内
		フェリムゾン	U14			
	ビームゾル	トリシクザール	I 1	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内
	フジワン乳剤	イゾプロチオラン	F 2	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内
ブラシンフロアブル	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内	
	アライト [®]	I 1				

(注) 液剤、水和剤、乳剤、フロアブル剤の散布液量は、10a当たり140～150L散布する。

表2 穂いもちの防除薬剤・水面施用剤（粒剤、パック剤、ジャンボ剤）

剤型	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	10a当たり使用量	使用回数の制限※
粒剤、パック剤、ジャンボ剤	キタジンP粒剤	IBP	F 2	穂いもちに対しては 出穂7～20日前	3～5kg	2回以内
	フジワン粒剤	イゾプロチオラン	F 2	穂いもちに対しては 出穂10～30日前 (収穫30日前まで)	3～5kg	2回以内
	コラトップ粒剤5	ヒロキロン	I 1	穂いもちに対しては 出穂30日前～5日前まで	3～4kg	2回以内
	コラトップ1キロ粒剤12				1～1.5kg	
コラトップジャンボP	小包装(パック)10～13個(500～650g)					

(注) 止水期間を1週間以上とし、落水・掛け流しは行わない。

表3 無人航空機散布によるいもち病の防除薬剤

剤型	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり散布液量	使用回数 の制限※
乳剤、ゾル剤	アミスターエイト	アズキストロビン	C3	収穫14日前まで	8倍、0.8L	3回以内
	ビームゾル	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	6~8倍、0.8L	3回以内
	フジワン乳剤	イゾプロチオラン	F2	収穫14日前まで	8倍、0.8L	2回以内
	ブラシンゾル	フェリムゾン フサライド	U14 I1	収穫7日前まで	8倍、0.8L	2回以内
粒剤	オリゼメート粒剤20	プロベナゾール	P2	収穫14日前まで	1kg	2回以内
	コラトップ粒剤24	ピロキロン	I1	穂いもちに対しては出穂3 0日前~5日前まで	0.5kg	2回以内
	コラトップ1キロ粒剤12				1kg	

※ 使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)
- ・フェリムゾンを含む農薬の総使用回数：2回以内
- ・フサライドを含む農薬の総使用回数：3回以内
- ・アズキシストロビンを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では3回以内)
- ・カスガマイシンを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、種子浸漬は1回以内、育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)
- ・イソプロチオランを含む農薬の総使用回数：3回以内(但し、移植前は1回以内、本田では2回以内)
- ・IBPを含む農薬の総使用回数：3回以内(但し、粒剤は2回以内)
- ・ピロキロンを含む農薬の総使用回数：3回以内(但し、直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
- ・プロベナゾールを含む農薬の総使用回数：2回以内(但し、移植時までの処理は1回以内)

稲こうじ病

- (1) 稲こうじ病は、穂ばらみ期の低温、降雨の多い場合や窒素過多のほ場で発生しやすい病害です。
- (2) 常発地帯では、ほ場の土壌中に菌が常在しており、田植後早い段階から稲体に侵入し、穂ばらみ期に降雨や日照不足などの条件が整えば穂で発病します。天候予報などで穂ばらみ期に降雨が予想される場合は、出穂前に薬剤防除してください(表4)。

表4 稲こうじ病の防除薬剤

剤型	薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除適期	使用方法	使用時期 (収穫前日数)	10a 当たり 使用量	使用回数 の制限※
水面施用剤	モンガリット粒剤	シメコゾール	G1	出穂 21~ 14 日前	湛水 散布	収穫 45 日前 まで	3~4kg	2 回以内
	モンガリット1キロ粒剤	シメコゾール	G1				1~1.3kg	2 回以内
散布剤	ラブサイドベフラン粉剤 DL	イミノクタジン フサライド	M07 I1	穂ばらみ 期	散布	穂ばらみ期~ 穂揃い期(但 し、収穫 14 日前まで)	3~4kg	3 回以内
	Z ボルドー粉剤 DL	銅	M01			出穂 10 日前 まで	3~4kg	—
	ラテラ粉剤 DL	イミノクタジン トリシクラゾール	M07 I1			収穫 14 日前 まで	3~4kg	3 回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・シメコゾールを含む農薬の総使用回数：2回以内(但し、移植前は1回以内)
- ・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：3回以内
- ・フサライドを含む農薬の総使用回数：3回以内
- ・トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)

(注) Zボルドー粉剤DLは葉が濡れている場合は葉害が出やすいので注意する。

(注) 水面施用剤を使用する場合は、止水期間を1週間以上とし、落水・掛け流しは行わない。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）

- (1) 7月下旬頃から第2世代幼虫が、ツトを作り始めます。若齢期幼虫のうちが防除適期です。中齢以降の防除は効果が劣るので、ツトが目立つ場合は、8月中旬頃までに薬剤散布を行ってください（表5）。
- (2) 直播栽培や移植時期が遅かった場合は、出穂期が遅く被害を受けやすいので、発生が目立ち始めたら遅れることなく薬剤散布を行ってください。

表5 イネツトムシの防除薬剤（散布剤）

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期	使用方法	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a あたり使用量 (散布液量)	使用回数 の制限※
スミチオン乳剤	MEP	1B	7月下旬 ～8月中旬	散布	収穫21日前まで	1,000倍 (140～150L)	2回以内
MR. ジョーカー粉剤DL	シラフルフェン	3A			収穫7日前まで	4kg	2回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：3回以内（但し、種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内）
- ・シラフルフェンを含む農薬の総使用回数：2回以内

イネアオムシ（フタオビコヤガ）

- (1) 幼虫が葉を食害し、幼穂形成期以降、特に出穂期前後の加害は収量に影響を及ぼします。山沿い地域の風通しの悪い水田や、生育が遅れたイネ、葉色の濃いイネは多発しやすくなります。
- (2) 本県では年2～4回の発生が見られ、成虫は8～9月の第2～3世代の発生が目立ちます。第2～3世代幼虫の薬剤防除時期の目安は7月上旬～8月です。

表6 イネアオムシ（フタオビコヤガ）の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期	使用方法	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10aあたり 使用量	使用回数 の制限※
スミチオン乳剤	MEP	1B	8月上旬 ～中旬	散布	収穫21日前まで	2,000～4,000倍 (140～150L/10a)	2回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：3回以内（但し、種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内）